

『狭山丘陵』



この場所は、狭山丘陵の多摩湖東側にある「都立狭山公園」の桜です。最寄りの駅は西武多摩湖線「西武遊園地駅」下車、徒歩3分ほどです。公園内にはソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラなど合計920本の桜が植えられており、春は花見の名所として多くの人を訪れます。狭山丘陵は東西11キロ、南北4キロのなだらかな丘陵で桜が多く、全体では1万本近くあるのではないかと思います。

狭山丘陵の中心にある多摩湖と狭山湖は絵や写真を趣味としている人たちに人気があります。あるとき私が狭山湖の堤防にでかけたら、200人近くのカメラマンが三脚を並べており驚いたことがあります。また、野鳥の観察や写真撮影の人たちも多く、丘陵には約130種の野鳥が生息しています。狭山丘陵の東京都側は近年公園化が進み、都立公園となってきています。現在、私の住んでいる瑞穂町石畑も来年には「都立夕日台公園」となる予定です。埼玉県側は所沢市と入間市がそれぞれの企画を展開していますが不法投棄が目立ちます。所沢市内には民間のボランティア団体が大規模開発を阻止する目的で寄付を募りナショナルトラスト運動を展開しています。

多摩湖は正式な名を、村山貯水池と言います。昭和2(1927)年に工事が完成し、それまで長い間続いてきた村々は湖底に沈み消滅しました。村人達の多くは、現在の武蔵村山市や東大和市などに移転しました。その頃、小学生だった人達は現在は85歳を越えています。昭和50(1975)年、発掘調査のため湖底の村跡が再び地上にあらわれました。現在85歳を越えている村人はその時には55歳を越えたくらいだったのでしょか？

ところで、私はこの多摩湖畔に9歳の頃から住んでいます。その頃の丘陵周辺は田園風景でした。昭和50年の発掘調査の頃、私は21歳で多摩湖の湖底の村跡を目にしました。その頃既に田園風景はなくなっており、住宅風景に変わっておりました。その後、狭山丘陵に漂う私の思い出を写真で撮影しようと思ひ立ち、家族も賛成してくれたので、過去へと遡る撮影の旅が始まり、完成した作品を西武百貨店所沢店内のギャラリーをお借りして、1996年に初個展「四季・狭山丘陵」を開催したのでした。

2006年3月1日

かどや
廉屋 勝司

 プロフィール

1996 個展「四季・狭山丘陵」(所沢西武ワルツ)
 1999 二人展「東京の清流」(神田・写真弘社ギャラリー)
 2000 個展「緑水景」(フジフォトサロン銀座)
 2001 個展「緑水景」(所沢西武ワルツ)
 2002 個展「ふるさと憧憬」(富士フォトギャラリー調布)
 2004 個展「緑水景(II)」(立川・フロム中武・ギャラリーフロム)
 PFJ日本写真家連盟会員・SSP日本自然科学写真協会会員・フォトン21会員